

今号より、日本の城郭の専門家・三浦正幸教授が独自の視点で選んだ全国12の名城を毎月ご紹介します。誰もが知るあのお城に、現代にも通じる建築・土木のどんな「技」が込められているのか。誌面と動画でお楽しみください。



# ニッポン名城 技めぐり

城から学べる  
“Construction”



Vol.01

豊臣政権時代

徳川政権時代(慶長年間)

徳川政権時代(元和年間以降)

幕末

合戦のための城から、大名の権力を象徴する近世城郭に変化

## 岡山城

所在地	岡山県岡山市
築城年	1592(天正20/文禄元)年
築城主	宇喜多秀家
主な改修者	小早川秀秋、池田忠継・忠雄
保存状態	天守は空襲で焼失し、RC造で復元。櫓・石垣・堀が現存し、櫓2棟は重要文化財に指定。

### 大土木工事が行われた豊臣政権下の「権威の象徴」

豊臣政権下で重用され、のちに五大老の一人となる宇喜多秀家が1592年に築城した岡山城。既に豊臣秀吉による天下統一が成し遂げられ、城は軍事拠点というより大名の権力・財力を誇示するための象徴という側面が強かった。五重の屋根を持つ天守は大坂城を模したと言われており、当時の最高格式で建てられた城の一つとされる。手薄な東側の防備を固めるため、旭川の流れを付け替えて天然の堀とした工事は戦国時代最大規模の土木事業であり、その時変えられた川の形は今も見る事ができる。



岡山城の東側を取り囲む形で付け替えられた旭川の絵図。  
『備前国岡山城絵図』(国立公文書館所蔵)

続きは動画をチェック!



日本の建築史を専門とする広島大学名誉教授・三浦正幸教授の解説動画をこちらからご覧いただけます。

三浦正幸教授…東京大学工学部建築学科卒。建築学者、工学博士、一級建築士。NHK大河ドラマの建築考証担当、城郭や社寺建築に関する著書多数。

